

皆さんは小学校時代、郷土の歴史について学んだことを覚えていますか。その時、地域の発展に尽くした先人が、どのような苦心や努力をして当時の生活の向上に貢献してくれたと学んだでしょうか。今回は、郷土学習についてのお話です。

**未来への架け橋**

「橋を架ける。熊本の白糸台地は江戸時代、水に乏しい不毛の大地でした。この困難の中に布田保之助は希望を見出しました。水路橋を架け、山から水を引く。高さ20呎も

の石橋は当時存在しませんでした。30億円を超える費用を捻出しなければならぬ。高い水圧、大雨、想定外の事態に何度も失敗しました」

**小学4年生社会科の郷土学習**

「それでも保之助は決して諦めませんでした。30年以上にわたる挑戦の末に『通潤橋』

を完成させました。熊本地震で一部損壊したものの今でも現役。150年にわたり白糸台地を潤し豊かな実りをもたらしてきた。まさに『未来への架け橋』となりました」

これは2016年9月26日招集の第192回国会冒頭で安倍首相(当時)の所信表明演説の一部です。演説は熊本県山都町の白糸台地に布田保之助らによって架けられた石橋「通潤橋」の物語で締めくくられています。その国会では大規模な平成28年度第2次補正予算が成立、熊本地震災害復旧・復興関係予算も大幅に認められました。



布田保之助の墓 (熊本県熊本市)

グラムは、戦後の小学校の学習指導要領が一貫して、児童の発達段階(学習能力)が高まった小学4年生の社会科で義務付けてきたものです。現行の学習指導要領・同解説によると「例えば用水路の開削や堤防の改修、砂防ダムの建設、農地の開拓などを行って地域を興した人、藩校や私塾などを設けて地域の教育を発展させた人、新しい医療技術等を開発したり病院を設立したりして医学の進歩に貢献した人、新聞社を興すなど文化を広めた人、地域の農業・漁業・工業など産業の発展に尽くした人など『開発、教育、医療、文化、産業など』

の面で地域の発展や技術の開発に尽くした先人の具体的事例の中から一つを選択して取り上げる」とあります。発行されている東京書籍／教育出版／日本文芸出版の三つの教科書はいずれも「開発」の面で地域の発展に尽くした先人の苦勞や功績を取り上げています。

**通潤橋／見沼代用水／那須疎水**

東京書籍は「通潤橋」を学習素材として取り上げ『谷に囲まれた台地に水を引く』というタイトルで18頁を割いています。教科書は、熊本地震からの復旧も進み今は熊本県を代表する観光資源としても重要な役割を果たしており、現在も保之助の誕生日と命日には毎年例祭が行われているなど、通潤橋が地域住民の宝になっていくと記されています。教育出版の教科書は井沢弥

郷土のインフラ作り 先人の功績を学ぶ

惣兵衛為永が新田開発のために武蔵国に普請した灌漑農業用水「見沼代用水」を、日本文芸出版の教科書は栃木県北部の那須野が原に飲料・農業用水を供給する用水路で、矢板武や印南丈作らの尽力により整備された「那須疎水」を採録しており、いずれの教科書も十分なページを割いて「地域の発展に尽くした先人がさまざまな苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したこと」を教えています。

**安倍元首相 国会演説の結び**

安倍元首相の所信表明演説は、次の言葉で締めくくられています。「少子高齢化、不透明感を

増す世界経済、複雑化する国際情勢、厳しい安保環境。我が国は今もさまざまな困難に直面しています。私たちに求められていることは悲観することでも、評論することでも、ましてや批判に明け暮れることでもありません。建設的な議論を行い、先送りすることなく「結果」を出す。私たちは国民の代表としてその負託にしっかりと応えていこうではありませんか。(中略) 決して思考停止に陥ってはなりません。互いに知恵を出し合い、通基盤がなければ、正しいコ共に『未来』への橋を架けようではありませんか」

安全で快適な生活は、先人たちが森林や田畑、鉄道や道路を整備し、川を治め、水資源を開発するなど、絶え間なく国土に働きかけ続けることにより、国土から恵みを返すこともらってきた歴史の賜物です。現代に生きる私たちの世代も国土に対して働きかけを続け、将来世代により良いインフラストラクチャー(社会基盤)を引き継いでいかなければなりません。正確な知識や道徳という共通の持つ能力を引き出し、それによって社会・経済を維持・発展させていくことはできません。「布田保之助と通潤橋の物語」は、戦前は修身、戦後は国語・社会・道徳の教科書に幾度も採録されてきた伝記であり、児童・生徒に生き方の一つの規範を示す役割を果たしてきました。



通潤橋 (熊本県山都町)



インフラ／教育／民主主義は、国を豊かにするだけでなく、そこに住む人々に基本的な健康や安全を提供し、機会や希望や尊厳を与える「幸福の基盤」なのです。  
(国土学アナリスト 森田康夫)